

野洲市の地域公共交通を考える市民懇談会の結果概要について

～どうなる移動手段～



1. 開催目的

地域公共交通（民間路線バスおよびコミュニティバス）の現状と課題を市民と共有し、令和9年3月予定のコミュニティバス再編につなげるため、当該懇談会を開催した。

2. 開催概要

日 時：令和8年2月7日（土） 14：30～16：30
会 場：野洲市総合防災センター2階 研修室
主 催：野洲市、野洲市地域公共交通会議
参加者：33名

3. 主な構成

-
- (1) 現状報告「野洲市内を運行する地域公共交通の現状と今後について」 野洲市
 - (2) 講演「持続ある地域公共交通を目指して」 講師 龍谷大学 井上教授
 - (3) パネルディスカッション

パネラー：龍谷大学 井上教授、近江鉄道(株)、滋賀バス(株)、近江タクシー(株)、
滋賀運輸支局、地域代表2名、野洲市（市長、都市建設部次長）

4. パネルディスカッションの要旨

事業者の報告・課題

- ・人材確保の困難と職員（乗務員）高齢化の進行
- ・運行経費の増加（人件費・燃料費等の上昇）
- ・予備要員の確保及び安定的な運行体制の整備
- ・利用者に対する情報提供不足及び利用に係る心理的障壁の解消

地域代表の意見（主な論点）

（1）利用における心理的・情報面の障壁

- ・コミバスの初回利用時の「乗り間違い」「降車場所の誤認」等の事例が共有され、利用ハードルが存在することが確認された。
- ・若年層への認知が不足しているため、SNS等を活用した情報発信の強化が必要である。
- ・高齢者は公共交通を利用することに抵抗があるため、利用体験等の支援が有効である。

（2）再編にあたっての合意形成（負担と利便性のバランス）

- ・利便性の向上は歓迎される一方で、不便になることに対しては反発が生じやすく、再編に当たっては税投入の範囲や求める利便性水準についての市民理解を得るプロセスが不可欠である。

（3）路線・停留所配置の妥当性（利用実態に基づく検証）

- ・複数の停留所が存在していても利用が少ない地域がある等、配置の妥当性検証が必要との指摘があり、行政側から利用実態を踏まえた提案を行い、住民側からの意見を受ける場の継続が必要である。

各パネラーからの事例紹介（参考）

- ・石川県野々市市「のっティ」：運賃100円設定、複数路線で利用増加
- ・日野町・竜王町「チョイソコ」：予約応答型でAIによる経路設定を導入
- ・京都市雲ヶ畑地区：路線廃止後、乗合タクシー運行＋自治会の赤字負担、自治体は利用促進で支援
- ・デマンドタクシー：利用者数の増加は行政負担の増加を伴う構造である点に留意

5. 市民懇談会の結果

乗務員不足と運行コスト増により、公共交通の維持が困難化している。公共交通の

維持は行政負担だけでは限界があるため、利便性と行政負担の折り合いが必要となる。
持続ある公共交通のためには、利用促進が必要であり、分かりやすい情報提供が重要であると共に、引き続き公共交通のあり方について検討が必要である。

6. 参加者の主な意見とアンケート（要約）

○共通的な懸念・要望

- ・担い手不足及び高齢化に関する危機感
- ・路線・時刻表の見直し（選択と集中）
- ・高齢者を含む移動の確保に向けた施策
- ・バス以外の移動手段との連携（タクシー、デマンド等）
- ・利用促進のための情報発信・プロモーション強化
- ・長期的視点に立った構想と価値観の整理

○利用促進に向けた具体案（市民意見）

- ・価格インセンティブの導入（利用しやすさ・お得感の訴求）
- ・体験機会の提供や広報活動の強化
- ・利便性の向上（運行本数、時間帯、目的に応じた運行）
- ・路線の分かりやすさの改善
- ・需要に応じた柔軟な運行（デマンド方式等）
- ・官民の役割分担の明確化
- ・外部資源（企業、観光等）の活用
- ・将来像の提示による合意形成促進

○その他の意見

- ・対話の場の継続的運営
- ・試乗・実験的施策の実施
- ・利用特典の付与（目的地側の事業者等との連携）
- ・タクシーとの役割分担の明確化と周辺課題への配慮
- ・デマンド交通に対する期待
- ・高齢者の乗降等に係る安全対策の強化